

## 3 「Do for Smile@東日本」プロジェクト（東日本大震災復興支援）

### 3.1 明学・大槌町吉里吉里復興支援プログラム

#### コーディネーター総括

2011年3月11日の東日本大震災直後から2017年3月まで、大槌町で住民の皆さまや学生、大学関係者とゼロから活動を作り上げてきた市川コーディネーターが退職し、私がこれまでの陸前高田での活動に加え大槌町での活動も担当させていただくこととなった。私自身は陸前高田復興支援プログラムの学生たちとの合同スタディツアーなどもあり何度か大槌町を訪れてはいたが、新しくかさ上げされた土地のうえに住宅が建設され、子どもの自転車や洗濯物など「生活感」が沿岸部の一部に戻ってきているようすや、防潮堤が造られている場面などを目の当たりにして、震災から「もう」7年か「まだ」7年かと考えながらもまずは学生たちの活動を地域に必死につなげようとした1年だったと実感している。

住民の方や学生メンバーにとっては、最初からいろいろ話し合いながら活動してきた市川コーディネーターから担当が替わることに大きな不安があったに違いない。その意味でも、この1年我々の活動を見守り、ご協力・ご支援くださった皆さまに心からお礼を申し上げたい。上級生にも今までどのように活動を進めていたのかを訊きながら、できる限り現地の活動を一通り見ていくことを心がけた。

とはいえ、この1年、活動のほとんどが吉里吉里学園小学部および中学部での活動であったため、学校関係者の皆さまや一部の小中学生との関わり以外の部分が手薄になってしまったことは否めない。吉里吉里地区の方々とは2017年3月の陸前高田セクションとの合同スタディツアーでの「お茶っこの会」の次にお会いしたのは、ほぼ1年後の2018年2月の、やはり合同スタディツアーの「お茶っこの会」だった。地域の方々に支えられている活動ゆえ、2018年度は、担当コーディネーターとして私も地域の方々との交流をさらに深め、私たちに求められていることは何か感じ取っていききたい。

大槌の町を歩いていると、「明学さんはずっと来てくれていてありがとう」などと、あたたかく声をかけてくださる方々も多い。継続することに意義を見出す一方、震災から7年経ち、私たちのような遠方の大学・大学生が求められることも変わってきているとも感じている。例えば、吉里吉里学園中学部での学習支援活動は、今年度の春活動のときに生徒、教員、そして保護者の皆さまを対象にアンケートを実施したが、その結果からも、活動の軌道修正をする必要がありそうだ。また、2018年4月には、震災で全壊した吉里吉里地区の公民館分館が新たに建設され、利用が開始される。地域の方々の新たな「拠点・居場所」ができたことで、住民の皆さまたちの笑顔があふれることを期待したい。また、私たちにできることがあれば、この分館で多世代交流や文化・芸能交流など、さまざまな分野で関わらせていただきたい。それにより、学生もやりがいを感じることもなるだろう。新しいこの分館を、地域の方々とともに利用させていただきながら活動できるのを楽しみにしている。

さらに、2018年度は、吉里吉里地区以外の大槌町での活動についても検討している。明治学院大学は大槌町と「協働提携に関する基本協定書」を締結しており、2018年に同協定が更新されたことから、ご縁と地域のニーズがあれば、吉里吉里地区以外でも学生の活動を検討したい。

震災からの時間の経過によって変わりゆく地域のニーズに、私たちも対応していく必要がある。そうしなければ「するための活動」となってしまう、本来の目的を忘れてしまう。活動の継続にも撤退にも勇気とエネルギーが要る。学生が「先輩が築いてきた活動を自分たちの代でやめてしまうのは・・・」という思考回路に陥らぬよう、「私たちはどこを向いて、何のために活動しているのか」ということをあらためて学生たちと考えつつ、次年度は活動していきたいと思う。

（ボランティアコーディネーター 中原美香）

## ●2017年度「明学・大槌町吉里吉里復興支援プログラム」の主な活動

日にち（移動日含む）	内容（参加人数）
4/14（金）	吉里吉里学園中学部3年生が修学旅行の一環で明治学院大学に来校し、合唱や郷土芸能「大神楽」を披露
5/19（金）～5/22（月）	吉里吉里学園小学部運動会に参加（7名）
6/2（金）～6/5（月）	スタディツアー（14名）
8/1（火）～8/5（土）	・吉里吉里学園小学部で「コラボ・スクール」に参加（10名） ・吉里吉里学園中学部で「学習支援」を実施（10名）
9/3（日）～9/8（金）	吉里吉里学園小学部での授業「ふるさと科」に参加（8名）
9/29（金）～10/2（月）	「吉里吉里大運動会」（地域の運動会）に参加（7名）
11/17（金）～11/20（月）	吉里吉里学園小学部で「わんぱく広場」を実施（8名）
2/4（日）～2/10（土）	吉里吉里学園中学部で「学習支援」を実施（6名）
2/13（火）～2/18（日）	合同スタディツアー（陸前高田セクションと）（9名）
2/16（金）～2/19（月）	吉里吉里学園小学部で「わんぱく広場」を実施（5名+合同スタジアムメンバー）
3/11（日）	「3.11被災地応援イベント『～あの時と今～』」（8名、職員1名） 横浜市民防災センターで横浜地域活動、「Do for Smile@東日本」プロジェクトの学生メンバーがワークショップ、パネル展示を実施
3/22（木）・3/23（金）	「大槌復興支援マルシェ」の「おおつちおばちゃんくらぶ」ブースにて出店ボランティア@有楽町駅前（延べ12名（陸前高田セクション2名含む））

## ◇吉里吉里学園中学部が修学旅行で明学を訪問

目的	・明治学院大学を訪問することにより、刺激を受け、将来さまざまな選択肢があることを知ってもらう ・多くの人の前で、郷土芸能を発表することにより、自分たちの地域の魅力に改めて気づききっかけとなる
場所	明治学院大学白金キャンパス
活動内容	吉里吉里学園中学部3年生による郷土芸能の大神楽、合唱発表/大学内キャンパスツアー
活動日時	2017年4月14日（金）9:50～13:00

## 実施概要

普段から学習支援活動に関わっている吉里吉里学園中学部3年生が、修学旅行の一環として明治学院大学を訪問した。はじめに、生徒がアートホール内で吉里吉里の郷土芸能である大神楽の発表と、合唱の発表を行った。その後、チャペル内を見学し、オルガニストによる演奏や実際に生徒がオルガンを弾いたりして楽しんだ。キャンパスツアーでは、班に分かれて、学生の案内で、図書館・教室・ヘボン像を見学した。

## 感想・活動を通して得た学び

郷土芸能・合唱の発表は、迫力があり、素晴らしかった。普段、吉里吉里での学習支援活動の時とは違う一面を見ることができた。初めて明治学院大学を訪れた生徒たちは、食堂で学食を食べたり、大学内のさまざまな場所を見学して楽しんでいるようすであった。

中学生が、大学で多くの人の前で郷土芸能・合唱を発表することはとても意味のあることだと考える。このような経験をするのは貴重であるし、この経験を今後に活かしてほしいと感じる。

#### 今後に向けて

私たち学生が吉里吉里を訪れて活動することは多くあるが、吉里吉里の中学生がこちらを訪れて学生と関わる機会は滅多になく、このような機会は貴重であり重要である。明治学院大学がどのような場所なのか、普段吉里吉里で会っている私たち学生の大学内でのようすを知ること、自分たちの郷土芸能を発表することなどは、中学生にとってかけがえのない経験となるだろう。今後も続けていきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

#### ◇吉里吉里学園小学部運動会

目的	新たなつながりを作ること。震災から経過した町の歩みを再確認すること
場所	大槌町立吉里吉里学園小学部校庭
活動内容	吉里吉里学園小学部運動会の設営のお手伝い（ビデオでの記録等）
活動日時	2017年5月20日（土）8:00～5月21日（日）20:00
参加人数	7名

#### 実施概要

吉里吉里学園小学部の運動会に、テント設営や各プログラムで使用する備品の準備、運動会の記録としてのビデオ撮影等のお手伝いとして参加した。主に運動会の開会準備および閉会準備が中心となった活動である。また、運動会に関する活動以外では、吉里吉里カルタにも出てくる浪板不動滝へ実際に歩いて向かうといった「町を歩く」という活動も行った。震災から経過した町の歩みを再確認することで、学びを深めることを趣旨としたものである。

#### 感想・活動を通して得た学び

普段わんぱく広場の活動に参加してくれている子どもたちが、学校という場で一生懸命に競技に参加している姿を見て感動した。また、明学生に気がつき声をかけてくれた時、嬉しく思うと同時に先輩方が築いてきたつながりを実感した。準備時は、普段関わることの少ない保護者の方々と関わる機会となり、貴重な時間を過ごさせていただいた。町歩きでは初めて浪板不動滝を訪れることができ、新入生も2名いたため、よい経験になったと思う。

#### 今後に向けて

私たちの知っている子どもたちの違った一面を見ることのできた活動であり、普段関わることの少ない世代の方々と一緒に作業ができたりと貴重な時間を過ごした。少しでもニーズがそこにあるのであれば新たなつながりを築く機会にもなることが期待されることから続けていきたいと感じる。しかしながら、次にこの活動をするときは、もう少し内容を考えてから臨みたいと考える。参加学生各自が感じた反省をしっかりと還元したいと思う。

(学生メンバー 法学部法律学科)

## ◇スタディツアー

目的	以前から活動を継続している学生が知った吉里吉里の魅力を、新しく私たちの活動のメンバーとなった学生に伝え、大槌の今とその魅力を知ってもらうこと
場所	大槌町吉里吉里地区
活動内容	語り部による大槌町の案内/地域住民の方々から震災や町についての話を直接伺う/活動を継続している学生による町案内/調べ学習
活動日時 参加人数	2017年6月3日(土)～6月4日(日) 14名

## 実施概要

今年度のスタディツアーは、活動を行うなかで以前から活動を継続している学生が知った吉里吉里の魅力を、1年生を中心に新しく私たちの活動のメンバーとなった学生に伝え、大槌の今とその魅力を知ってもらいたいという思いから行われた。実際に私たちの活動場所である大槌町に足を運び、東日本大震災の現状、命、町の魅力、そして私たちにできることは何かを考え、学ぶことを目的とし、2日間かけて実施された。また、日頃の活動でお世話になっている地域住民の方々から震災当時のお話や、現在の町と地域住民のようすについて直接お伺いし、今後の活動について一人ひとりが考える時間となった。

## 感想・活動を通して得た学び

このスタディツアーは、4月に明学に入学し、私たちの活動に参加を決めてくれた1年生にとって、初めて吉里吉里を訪れる活動となる。そのため、今年度は「見る」「知る」「伝える」という三本柱のテーマを立て、初めての学生でもわかりやすく、なおかつ吉里吉里で活動するうえで覚えておきたい場所についての事前学習と発表を課したことで、参加学生全員が主体的に学べるような工夫をした。結果、参加した学生からは、「実際に足を運んでみて、報道と現実の差を知ることができた」「事前学習が有効活用できた」といった意見が多く聞かれ、新入生にとっても上級生にとっても充実した活動となったと考える。

## 今後に向けて

震災から7年目を迎える今、私たちが地域のためにできることは何か、あらためて考える必要があると感じている。これまで多くの先輩方や先生方、職員の方々がこの活動に携わり、一つずつ築き上げてきた「つながり」を大切にしながら、地域の人たちとともに、町の復興に少しでも力になれば嬉しく思う。貴重な生の声を聞ける環境や、活動をするうえで数多くのサポートがあることに感謝の気持ちを持ちながら、これからも活動を続けていきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

## ◇コラボ・スクール

目的	子どもが本来持っている力を引き出す
場所	大槌町立吉里吉里学園小学部
活動内容	・学習の支援 ・体力向上のため、子どもたちとともにプールで遊ぶ
活動日時	2017年8月2日(水)～8月4日(金)
参加人数	13名(内、明治学院高等学校生徒2名、教員1名)

## 実施概要

コラボ・スクールは、大槌町教育委員会の主催で実施されている。私たちは夏休みの宿題を教えたり、ドリルの問題を一緒に考えたりした。その際子どもたち一人ひとりと向き合い、個人に合わせた支援を行うことを意識し取り組んだ。3日間にわたる活動だったため、1日の終わりにミーティングを行い、反省を次の日に生かすことに努めたので、臨機応変に活動できた。

また、今年は明治学院高等学校からも2名の生徒と1名の教員の参加があり、私たちとは異なる視点での活動への意見も伺えた。



## 感想・活動を通して得た学び

今年は例年の活動と異なる点が多く、戸惑うこともあった。しかし、自ら子どもたちに声を掛けたり、周りを見て動いたりしたことで次第に馴染むことができ、積極的に行動することの大切さを改めて意識する活動となった。

勉強の際には、ただ教えるだけにならないよう注意した。一緒に調べたり、ヒントを出したりし、子どもたちが答えを見つけられるように工夫した。

## 今後に向けて

活動の終わりには、多くの子どもたちから「また来てね」と声を掛けてもらった。この言葉から子どもたちに私たちとの関わりを楽しんでもらえたことが伝わってきて、やりがいを感じた。

ミーティングでは、3日間子どもたちと過ごし距離を縮めるうえで役立ったことや工夫した点があがった。一方、反省点や課題もある。これらを生かし、子どもたちにとって良い環境がつかれるよう努めていきたい。そして、次回も「また来てね」と言ってもらえることができるよう、メンバーで協力して活動をつくっていきたいと考える。

(学生メンバー 心理学部教育発達学科)

## ◇学習支援

目的	・「個」を尊重し、生徒一人ひとりが必要としているサポートをする ・生徒の「人間力」を育てる後押しをする
場所	大槌町立吉里吉里学園中学部
活動内容	・学習会（8月）：夏休み期間に学習会へ参加する生徒の勉強（夏休み課題や苦手な教科など）を支援する ・授業サポート（2月）：生徒が学年末テストや高校受験を控えた時期に、私たちが実際の授業へ参加することでそれらの対策を支援する
活動日時 参加人数	・学習会：2017年8月2日（水）13：00～15：00、10名 8月3日（木）・4日（金）各9：30～15：00、10名 ・授業サポート：2018年2月5日（月）～2月9日（金）各8：35～17：00、6名

## 実施概要

8月の学習会では、3日間にわたって午前中は9年生、午後は7、8年生の学習を支援した。夏休み期間であるため生徒は主体的に、または先生方から声をかけていただくことで学習会に参加してくれた。生徒は主に夏休みの課題や、自力で解けない問題を持ち寄ったため、私たちは勉強を分かりやすく教えることや、生徒にとって学習そのものに対する興味・関心が高まるように努めた。

2月の授業サポートでは、5日間にわたって授業（主に英語と数学）に入り、各生徒に合った勉強を支援した。授業以外にも、9年生の勉強を支援する放課後学習を実施し、学年末テストや高校受験の対策などに一緒に取り組んだ。登校から下校まで学校で過ごし、学校生活のようすがわかるように努めた。

## 感想・活動を通して得た学び

8月の学習会では、3年生のメンバーから「3年間学習支援に関わり続けることで中学生の成長が感じられた」という声があり、本活動を継続してきたからこそ得られるものがあると感じた。他にも、生徒から大学生活のことや将来のことなどについて質問攻めにあった学生がいるなど、学習以外でも生徒にとって私たちの存在が少しでも刺激になればよいと思った。

2月の授業サポートでは、6日（火）に生徒朝会が行われ、生徒会やそれぞれの委員会の生徒が全校生徒の前で発言する姿が印象的であった。生徒数が少ないことは、生徒にとって人前が出る機会が多くなることも意味する。一人ひとりに役割が求められる点で「個」が尊重されていると感じた。

## 今後に向けて

8月の学習会では、生徒に対して学生の数が多くなり、生徒1名対学生3名になるなど、生徒に負担をかけてしまった。本活動のあり方について再考する時期だということを学生メンバーで共有するようになった。そこで、2月の授業サポートの時、私たちの活動を客観的に評価していただくために生徒や保護者の方々、先生方を対象としたアンケートを実施した。率直かつ多様な回答を得ることができ、現在その結果を精査中だ。本活動は今まで以上にその意義が問われている。常に地域の方々の声に耳を傾け、私たちにできることは何かを学生間で議論していきたい。

（学生メンバー 法学部消費情報環境法学科）

## ◇ふるさと科

目的	自分たちの住む地域の文化や方言の良さを再確認してもらう
場所	大槌町立吉里吉里学園小学部
活動内容	吉里吉里カルタを使用し、吉里吉里の方言や文化に触れる
活動日時	2017年9月4日(月)～9月7日(木)(※4日は準備日)
参加人数	8名

## 実施概要

「ふるさと科」は、大槌町が震災後に導入した復興教育科目である。この科目の授業の一部として、明学生が3日間、吉里吉里学園小学部3年生の授業に入り、吉里吉里の豊かな方言や文化を記録し明学生と地域の方々との協働で2015年に完成した「吉里吉里カルタ」を生かした授業を、明学生主導で展開した。カルタを使用することで児童も簡単な方法で吉里吉里の魅力に触れることができ、疑問として出てきたことを、地域の方にインタビューという形で質問することで、子どもたちと地域の方をつなぐ機会ともなった。



## 感想・活動を通して得た学び

今年度ふるさと科の活動を行うにあたり、吉里吉里カルタの制作に携わった学生メンバーが卒業してしまった状況で、私たちだからできるふるさと科の活動をするという目標を立てて臨んだ。最終日に子どもたちに描いてもらった絵日記から吉里吉里語を楽しみながら学べたということがわかり、また参加学生メンバーも本活動を通して吉里吉里の魅力に再度触れることができたことから、この目標が達成できたと感じる。また、ふるさと科を通して子どもたちが吉里吉里語や文化について積極的に学ぶ姿が印象的であった。

## 今後に向けて

活動実施後のミーティングでは具体的な反省点や改善点が出てきた。来年度も実施することが計画されているため、そこに向けて準備を進め、今年度以上の成果が出せるよう取り組みたい。また、私たちにとっても、授業に入れていただき進行を務めるのは大変貴重な機会であることを自覚し、ふるさと科を通して、吉里吉里の方言や文化の継承に関わりながら吉里吉里の復興に貢献していきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

## ◇吉里吉里大運動会

目的	新たなつながりを築くこと
場所	大槌町立吉里吉里学園小学部校庭
活動内容	吉里吉里大運動会前日および当日準備のお手伝い
活動日時	2017年9月30日(土) 8:00 ~10月1日(日) 20:30
参加人数	7名

## 実施概要

吉里吉里の地域の皆さんが集まり行われる吉里吉里大運動会の前日のコースの線引きなどの会場設営の準備や当日のイス出し、備品の出し入れ、運営の手伝い、閉会後の片付けの手伝いをさせていただいた。競技には吉里吉里カルタを取り入れていただいたものもあった。運動会後の懇親会にもお招きいただくなど、地域の方々と一緒に体を動かす活動となった。



## 感想・活動を通して得た学び

普段の活動では子どもたちとの関わりが中心であり、このような形で地域の方々と関わる機会はとても貴重であると感じた。お祭りと同じように吉里吉里大運動会は吉里吉里の地域の方々にとって重要なイベントであり、地域の活気が伝わってきた。そういった「場」に明学生が参加させていただいていることの意味を学生各自が考える活動となったと考える。新たなつながりを築いた学生も多く、今後の活動に何らかの形で還元して行けたらよいと思った。

## 今後に向けて

吉里吉里の地域の皆さんが集まる場所に明学生が参加させていただいていることの貴重さを忘れてはならず、また感謝の気持ちも常に持たなければならないと考える。先輩方が築いてきたつながりと私たちが新たに築いていくつながりを確認する場としても、吉里吉里大運動会への参加は有意義であると感じる。また、岩手大学の学生との交流があったことも、我々の活動の今後についてのヒントになった。

(学生メンバー 法学部法律学科)

## ◇わんぱく広場 (11月)

目的	子どもが本来持っている力を引き出すこと
場所	大槌町立吉里吉里学園小学部
活動内容	体力向上のための体育館での運動や、工作などの創作活動、学力向上のための勉強会を行う
活動日時	2017年11月18日(土) 13:00~15:00、11月19日(日) 9:30~11:30/13:00~15:00
参加人数	8名

## 実施概要

わんぱく広場は、震災によって安心して遊ぶ場所がなくなってしまった子どもたちに、安心安全な遊び場を提供することを目的に始められた。震災から7年たった現在は地域のニーズ変化にともない、「子

子どもが本来持っている力を引き出すこと」を目的に活動を行っている。吉里吉里学園小学部の体育館をお借りし、ドッジボールなどの動の遊びと折り紙などの静の遊び、勉強会を行うなかで子どもたちに楽しんでもらうだけでなく、自分の持っている力に気づくことができるようにすることを心がけている。

### 感想・活動を通して得た学び

今回のわんぱく広場では、動の遊びのなかで子ども同士のトラブルが発生する場面があった。事前のリスク管理で対処法を考えてあったものの、子どもたちの勢いにうろたえて対処が遅れてしまい、私たちも子どもたちも、どう決着をつければよいかわからなくなってしまった。子ども相手でも、その場しのぎの言い訳やとりなしは通用しないし、かえって混乱を招いてしまうこともある。監督者として、毅然とした対応が求められると感じた。

### 今後に向けて

吉里吉里学園に通う子どもたちは学年問わず仲がよく、思いやりのある子どもが多いと感じる。小学部から中学部までの9年間同じクラスで過ごす彼らの団結力は素晴らしく強い。その反面で、我々のような大学生や他の地域の人と関わる機会は非常に少ないのではないだろうか。この活動は、その貴重な機会であるといえるだろう。わんぱく広場を通して、吉里吉里の未来を担っていく子どもたちに成長や刺激を与えることができたらよいと思う。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

### ◇わんぱく広場 (2月)

目的	子どもが本来持っている力を引き出すこと
場所	大槌町立吉里吉里学園小学部体育館
活動内容	体力向上のための体育館での運動や、工作などの創作活動、学力向上のための勉強会を行う
活動日時	2018年2月17日(土) 13:30~15:30、14名
参加人数	2月18日(日) 10:00~11:30/13:00~15:00、9名

### 実施概要

今回のわんぱく広場では、合同スタディツアーに参加した陸前高田セクションのメンバーとともに活動した。17日にはドッジボールや鬼ごっこなどの動の遊びと、折り紙やミサンガづくりなどの静の遊びに分かれて子どもたちと遊び、18日には午前中に宿題や自主学習をする勉強会、午後に「スノードーム」「円筒飛行機」「けん玉」の三つに分かれて工作を行った。学生の方が普段の活動よりも多かったため、子どもたちのようすや成長を見守ることができ、有意義な活動となった。

### 感想・活動を通して得た学び

今回の活動は震災から7年が経過し、今後の活動について考え、模索するなかでの活動となった。吉里吉里には公園などの遊ぶ場所が少なく、休日は家で一人で過ごすことが多いという子どもたちにとって、わんぱく広場は学校以外で友だちと会うことができ、思う存分遊ぶことができる重要な機会であることがわかった。また、子どもたちと学生がお互いに顔と名前を覚えているという関係性も大事にしていくべきだと感じた。今後もわんぱく広場の活動を続けていく意味があると感じた。

## 今後に向けて

今回の活動では陸前高田セクションのメンバーから客観的な視点の意見をもらうことができ、わんぱく広場の活動の必要性を再確認することができた。また、大きな喧嘩や怪我が起きることなく、円滑に活動を進めることができた。これからもリスク管理を徹底しながらわんぱく広場の活動を継続し、この活動が子どもたちが安全で安心して遊ぶことができる場所であり続けられるよう尽力していきたい。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)

## ◇学生による現地での自主活動

セクションとしての公式活動以外の自主的な活動について報告する。

### お祭りへの参加

吉里吉里<sup>あまてらすみおや</sup>天照御祖神社例大祭への参加は、一昨々年までアーカイブ活動の一環として行っていた。一昨年からは、セクションのメンバーが自主的に参加、見学する形となった。

このお祭りで披露される郷土芸能は「大神楽」「虎舞」「鹿子踊り」の3団体ある。私はそのうちのひとつである「大神楽」に所属し、<sup>じんぐ</sup>甚句や「ちゃかまこ」と呼ばれる楽器を担当させていただいた。活動は、大神楽の皆さんの練習に3日間入り、その後2日間にわたり行われる祭りに参加した。準備では、餅作りを手伝わせていただいた。

当日は、吉里吉里を練り歩き、各家庭や御宮前で神楽を披露した。自身の地元の祭りとは規模も内容も異なり、地域全体で祭りを作り上げていくところを見て、人々の強い結束力を感じた。そして、吉里吉里の郷土芸能を身近で見ることができ、とても感動した。

お祭りを通じて、吉里吉里の方々と密接に関わることができた。新参者の私でも快く迎え入れてくださり、困ったことがあれば助けてくださる親切な方ばかりで、温かさを感じた。非常に貴重な機会をいただけたことに感謝したい。

(学生メンバー 文学部フランス文学科)

### きりっ子文化祭

吉里吉里学園小学部の文化祭である「きりっ子文化祭」。ここで子どもたちは学年ごとに発表を行う。各学年学んできたことを生かす発表が印象的だった。3年生の発表では、9月に私たちが関わった「ふるさと科」での学びを生かした劇を披露していて、一緒に学んだ吉里吉里カルタの内容も入っていたことが印象的であった。今回きりっ子文化祭を訪れた学生2名は、PTA 発表のダンスに参加させていただいた。事前に披露する演目のビデオをいただき練習していったが、現地を訪れるのは当日になるため、合同での練習はできなかった。しかしPTAの皆さんは優しく受け入れてくださり、私たちにとって普段関わる機会があまりない保護者の方々に混ぜていただくことができたのはとても貴重な機会であると感じた。ふるさと科に関わることのない学年、わんぱく広場で会うことのない児童もいるなかで、子どもたちのようすを目の当たりにするのはとてもいい機会であった。また、作品展示もあり、家庭科や図工で作った作品たちを見ることで、普段子どもたちがどのような取り組みをしているのかを感じることができた。

(学生メンバー 社会学部社会福祉学科)